

第 2 回委員会における意見とその対応について

No.	第 2 回委員会における主な意見	対 応
シミュレーション結果について		
1	<p>・今回の津波に対し既存防災施設が果たした役割について、地域によって異なるものの、以下の点においていずれかの効果があったことを確認した。</p> <p>① 避難する時間を稼いだ効果 ② 浸水深さを下げる効果 ③ 水の勢い（流速）を減衰する効果</p>	
2	<p>・今後は、地域においてどれだけ避難時間が確保できるか等のシミュレーションが、まちづくりの観点からも必要。</p> <p>・浸水開始時間が分かるグラフをもっと地点数を増やしたほうが良い。</p> <p>・浸水面積や浸水深だけでなく浸水量も算出したほうが良い。</p> <p>・地元市町村から、「防災施設は本当に効果があったのか」と聞かれる。専門委員会では、様々な視点から検証し説明する必要がある。</p>	<p>・第 3 回委員会資料として、宮古市田老海岸、陸前高田市高田海岸、大槌町大槌漁港海岸、野田村野田海岸及び大船渡市越喜来海岸のシミュレーション結果を資料 3 のとおり整理した。</p>
3	<p>・波源モデルのすべり量の倍率の分布状況を整理すると将来のモデルの改良に役立つ。</p>	<p>・資料 3 のとおり整理した。</p>
4	<p>・今回よりも弱い外力のシミュレーションも示して欲しい。</p>	<p>・ご意見を踏まえ、引き続き検討を進める。</p> <p>・第 4 回以降の専門委員会では、個別地区の対策について具体的な検討を進めたい。</p>
海岸保全施設の被災メカニズムについて		
5	<p>・今回の資料は、今後の防災施設の設計基準の基礎データとなる貴重なものと考えられ、海岸施設の被災状況をさらに詳細に調査し、とりまとめておくことが重要。</p> <p>・県以外の機関の調査結果も整理すること。構造物の整備年代や地形状況も重要なデータとなる。</p>	<p>・調査結果を踏まえ、分類・整理を進めているところ。第 4 回以降に提示していきたい。</p>

No.	第2回委員会における主な意見	対 応
6	・津波が越流した防潮堤裏のり尻の洗掘深・洗掘長、引き波による表のり尻の洗掘深・洗掘長について調査して欲しい。	・資料4のとおり整理した。
津波対策の方向性、津波対策施設の整備目標、防災型の都市・地域づくりの考え方について		
7	・復興計画については短期・中期・長期・超長期など時間軸による仕分けが重要。	<p>・ご意見を踏まえ、引き続き検討を進める。</p> <p>・イメージ図について、資料6のとおり整理した。</p> <p>・第4回以降の専門委員会では、個別地区の被災原因の分析、対策の具体的な検討を進めたい。</p>
8	・行政と住民との信頼を保つためにも復興のロードマップを示すことが重要。	
9	・地域ごとの被害状況や、地理的条件、産業構造などを考慮し、地域にとって最もふさわしい防災対策のモデルケースを検討し、地域との合意形成を図りながら、県から国へ発信することが重要。	
10	・防災施設とまちづくりでは、まちづくりが先にくるべき。まちが前面に出ざるを得ない場合に防災施設を検討する。	
11	<p>・津波対策についてメニューだけを提示するか、お勧めを提示するか。復旧なのか改良なのか分からないと地域では選択できないだろう。</p> <p>・メニューの表では議論しにくい。イメージ図は有効な手段である。</p> <p>・イメージ図にはロードマップが必要である。</p>	
12	・具体のフィールドで議論すべき。ケーススタディ、モデルケースができたらし町村も交えて具体的な議論を行う場を設けるべき。	
13	・津波対策の基本は昭和初期から変わらない。これまでなぜ出来なかったかを検証するべき。	

No.	第2回委員会における主な意見	対 応
津波防災施設		
13	・津波が来襲する際に、地元消防団に「水門や陸閘を閉めに行け」ということは非人道的である。遠隔操作にしても地震で操作不能となる可能性もある。陸閘は普段は閉めておき利用する際に開けている地域もある。土地利用状況が許せば乗り越しにしても良い。	・ご意見を踏まえ、引き続き検討を進める。
14	・防潮林は、林幅が重要となる。	
15	・防潮堤、道路盛土等の組み合わせによる多重防災は5～8年で実施しないと達成されない。	
16	・太田名部海岸のように防災施設で被害を免れた地域もある。	
まちづくり		
17	・まちづくりにあたっては、 地域の歴史や文化を考慮しながら検討を進めることが重要。	・ご意見を踏まえ、引き続き検討を進める。
18	・建築制限は、国が土地を買収するか、個人の権利を制限することを覚悟するか、どちらかでは不可能である。	
19	・隣接する都市間の連携を支えるグランドデザインを示すべき。	
20	・まちづくりにあたっては、マネージメントできる人材が重要である。	
ソフト対策		
21	・避難手段は徒歩として欲しいが、自動車が利用されている現状となっている。 ・自動車と徒歩の避難動線が平行となることが良い。交差することは良くない。自動車の渋滞が起きたらすぐに自動車を捨てて逃げることに、自動車を利用する場合避難場所等での駐車をどうするかが、重要。	・ご意見を踏まえ、高齢者等も余裕を持って安全な安全な避難ができる避難計画の策定を進めることとしたい。